

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105473		
法人名	医療法人 昭和会		
事業所名	昭和会病院 グループホーム新地		
所在地	長崎県長崎市新地町6番3号		
自己評価作成日	平成 22年 9月 1日	評価結果市町村受理日	平成 22年 10月 21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成 22年 9月 30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くには中華街があり、水辺の森、美術館、湊公園ではランタンやおくんちが開催され露天見物や外出、散歩などが楽しめる環境にある。また、バス・電車などの交通機関も充実しており、面会者も多い。母体が医療施設である為、内科・皮膚科・理学療法士などの訪問がある等、協力体制をとっている。開設当初より1名の看護師を配置しており、医療面でも安心して頂けるように主治医との連携を図っている。看護師・介護福祉士・社会福祉士・介護支援専門員を職員配置しており、入所者様に寄り添い楽しく生活できるように支援していきたいと日々努力している事業所である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長崎の中心部に位置し交通の便が良いため、ご家族の面会も多く、窓から見える公園では、季節ごとのおくんちやランタンを見学できる。毎日の生活の場を大切にしながら、認知症の進行を遅らせるために、リハビリを行ったり、専門家との連携を図りながら、利用者に寄り添い笑顔で過ごせるように努めている。利用者の方が手作りのゴミ箱をたくさん作っており、ボランティアの方や関係者に配り、喜んで頂ける事を誇りとされている。又、利用者が大切にされている事を職員も分かち合っており、管理者と職員が共に意見を出し合い、研修にも熱心に参加する等、更なる研鑽に努めているホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時の唱和や廊下・台所等に理念を貼り出し、地域密着型サービスの意義を忘れないように努め、利用者様が少しでも自立した生活が送れるように心がけております。	管理者と職員は、理念を常に意識し振り返りができるようにとの思いから、理念が明記された文書を各々がポケットに入れる等、工夫して身につけている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会では、グループホームの紹介や広報誌の配布をしております。また、消防訓練に協力を頂いたり、回覧板を利用者様と一緒に配るなど地域の方と接する機会を設けております。	日頃から散歩や商店街に出かける際には、地域の方と積極的に挨拶を交わし、顔を覚えて頂き気軽に声を掛け合う事のできる関係作りが出来ている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を通じてグループホームならではの情報発信をしております。また、利用者の方々が新聞紙や広告紙で作ったゴミ箱を、地域の方へ配布しております。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行っており、地域の方々やご家族の方、行政や地域包括支援センターとの情報共有や助言を頂き、グループホームのサービスの質の向上に反映させております。	年に六回の開催が予定されており、行事やヒヤリハット報告、研修報告等を行い、現在、取り組んでいる内容についても意見を頂くようにしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	すこやか支援課や介護保険課等の行政関係から、グループホームのあり方や地域との連携方法についてなどの助言・協力を頂いています。	実際のケアの取り組みや災害時の対応について、相談を行いながら、問題解決に向けて一緒に取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の身体拘束委員が、日々の状態観察や職員の指導を行い、身体拘束禁止に取り組んでいます。	「ちょっと待って」など気づかない内に言葉を遮っていないか気をつけ、「～しましょうか」と利用者確認を取るような声かけを行うように努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	院内・院外研修に参加し、情報の共有化を行い、高齢者虐待防止に努めております。身体拘束廃止委員と虐待防止委員は兼務担当しており、日頃から言葉による暴力にも注意し、指導・教育を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があれば研修に参加したり、カンファレンスを行ったりしております。また、入所時や入所後にご家族や代理人の方に説明や紹介等の支援を行っております。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入所前の面接や訪問等において利用者様やご家族の方の不安や疑問点が解決出来るように対応しております。また、解約又は改定時は、文書での説明や面接等を行い、理解・納得のいくように対応しています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、行事参加、運営推進会議出席の際に、ご意見が直接届くよう配慮しています。また、利用者様やご家族様に潜在的意見が出やすいよう配慮しながら満足度調査を行い、運営に反映させております。	家族会を年2回実施され、ご家族に意見を伺えるようにアンケートを事前に取り取る等の工夫をして、何でも言って頂ける雰囲気作りに努めている。意見や要望は話し合いやケアに反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や定例会議、カンファレンス、運営推進会議に管理者が出席し、職員の意見を多く取り入れられるように努めております。また、職員と密に連携を取りいつでも相談が受けられるように努めております。	毎週水曜日に管理者と職員が気軽に意見を出し合える機会作りを行っている。日頃から何でも言い易い環境になるよう心がけ話し合いを大切にしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員面談等で情報の共有や助言、相談を行い、働きやすい職場を目指しております。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員面接において、職員の想いを確認し、目標とする事についての助言や院内外の研修等、支援をしています。代表者と管理者は常に情報の共有を行い、必要な研修などを積極的に受講させています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市認知症グループホーム連絡協議会会議等の勉強会や交流会等に職員や管理者は参加し、ネットワークの構築やサービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のご自宅等の訪問の際、利用者様やご家族の方の想いや現状等を把握し、入所されてからも安心出来るような関係づくりに努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談において、ご家族様が困っていることや要望の確認を行い、安心して頂けるように信頼関係づくりに努めております。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主治医や介護支援専門員、地域包括支援センター等からご意見を頂き、支援の必要性を見極めております。また、緊急を要する方には、他のサービスの紹介等をさせて頂いております。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者様の能力など見極め、共同で生活する方々との関係性が築けるように支援しております。例えば、洗濯や洗濯干し、おやつや行事食作り、掃除等、入所者の方同士が協力し合えるように、支援しています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所状況報告として、お便りや訪問時のご説明の際に、日頃の利用者様の表情や発言などお知らせし、絆が深められるように支援しております。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や友人など訪問しやすいように、努めています。また、買い物や美容室など馴染みの場所へ、出かけられるよう支援しております。	ご家族の支援を頂きながら、馴染みのマッサージに通われる利用者や、お墓参り、法事に出かけられる利用者もあり、一人ひとりの生活習慣を尊重している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、席替えや移動時など工夫をしています。また、洗濯たたみや散歩、ティタイム等の際に職員が間を取り持ち、入所者様の関係性を高めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも転院先に面会させて頂いたり、またいつでもご相談できる旨、説明しております。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のモニタリングや評価、利用者様やご家族の方の意見や意向を確認しながら、利用者様本位の支援が出来るように努めております。また、担当職員が利用者に寄り添っていけるように努力しております。	言葉で聞き取りにくい思いを、どのように援助しなければいけないか担当制にする事により、利用者の行動や表情から見えるようになり馴染みの関係ができています。意思疎通が困難な方には、ご家族から情報を得るようにもしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入所前のアセスメント以外にも、日常の会話やご家族の面会の際などから、生活歴や暮らし方、生活環境などの把握に努めております。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント時に、情報の収集を行い入所後は、日々の心身の状態の把握や、過ごし方、有する能力など、記録や申し送りにおいて現状把握に努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族の方の意向を把握し、ケアプランの原案を介護支援専門員や必要関係者で作成しています。その後、利用者様、ご家族を交えケア会議を開催し、それぞれの意見を反映して計画を作成しています。	外部評価を反映して、記録の簡素化に努めると共に、利用者主体となる様な介護計画になっているかを家族、計画作成担当者と考えている。又、センター方式の取り組みを試行錯誤しながら、臨機応変に対応している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践や結果、気づきなど看護・介護記録、日誌等に記録を行い、毎月モニタリング評価を行い、お一人お一人にあったサービスが提供できるように、ケアプランに反映させています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する入所者の方の状況を踏まえて、ケアプランの評価や修正、追加などを行い、柔軟な対応や支援が提供できるように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域マップ作りで生活周辺の環境や資源を把握し、自治会や長崎市広報誌等の行事把握を行い参加しています。また、ゴミ箱を作り地域へ配布し、入所者様の生きがいづくりにもなっています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、入所者様やご家族の方が希望されるかかりつけ医に依頼しています。主治医と看護師は連携を図り、病状の悪化防止に努めています。	利用者やご家族が希望するかかりつけ医となっている。基本的にはご家族に同行して頂いているが、要望があれば職員が代行している。その際には、受診の報告を密に取っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名を配置しており、病状の把握や異常の早期発見に努めています。主治医と看護師の医療連携を含め、いつでも連絡相談出来る体制をとっています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、看護師が同行し情報提供を行う等の連携を図っています。入院中、職員は面会に伺い、状態の把握や利用者様やご家族の思い等確認しています。退院前においては、主治医や病棟看護師と退院に向けての調整を行っています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の説明以外に病状の変化など、状況に合わせて説明やご相談をさせて頂いております。グループホームで出来ることや出来ないこと等、納得がいくように支援をしております。また、主治医等、指示や助言を頂いております。	現時点での看取りはなく、入居時には重度化に伴う指針を渡して、事業所が対応できる最大のケアについて説明を行っている。その時々で変化する家族の気持ちを大切にしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署開催の研修や院内研修に、参加しております。また、病状の変化に伴い、看護師より急変時や応急手当などの実践に沿った指導を行っております。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を地域の方々やご家族の方々を含め行っております。非常災害時の地域マップを作り、避難経路・場所等の確認を行い、連絡体制においても地域の方々のご協力を得ております。	年二回の消防訓練を実施しているが、今後は、三回の実施(地域参加型、夜間想定、職員に通知なしの訓練)を予定している。地域の協力体制については、自治会や運営推進会議にて協力を呼びかけている。	今後は、緊急時の避難先でも継続してケアが行えるように、緊急時持ち出し利用者ファイルを作成することに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し、態度や言葉掛けに十分注意して対応しております。また、共同の生活の場である為、お互いのプライバシーを守り、個人情報の流出がないように努めております。	排泄や入浴の際には、利用者の気持ちを大切に考え、掛け物をそっとさりげなく掛ける等の配慮を行っている。個人情報にも注意を払い、居室には氏名ではなく、花の名前の表札を付けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者様が自己決定できるような声掛けに努めております。おやつ、行事食、衣服、買い物、レクリエーション、テレビ番組、その他、ご本人のご希望を伺いながら、サービスの提供にあっております。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の体調や精神状態など日々の変化に応じて、昼寝、散歩、買い物、余暇の過ごし方、帰室、あるいは食事の時間変更など、出来る限りご希望に沿って支援させて頂いております。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寝巻きや洋服など、希望されるものを着たり、散髪も長さや雰囲気など、美容師の方と相談しながら切らせて頂いております。また、お化粧品や浴衣、着物、おめかし等して、行事に参加して頂いております。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ、行事食等利用者様の希望を伺い、一緒に買い物に出かけて材料を選び、調理したりしております。また、誕生日ケーキと一緒に飾り楽しみながら、出来る事を手伝って頂いております。	事前にご家族にアンケートを行い、一人ひとりの要望に合わせて努めている。お寿司がお好きな方には、職員が同行して一緒に食事に出かける事もある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取カロリーや飲水量など決めてはおりますが、季節や体調により調整しております。食欲低下やムセリがある方など、状況に応じて栄養補助食品やトク製剤など使用させて頂いております。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所やテーブルで介助する方、全介助の方などその方に応じて毎食後の口腔ケアを行っております。また、必要時は歯科医の往診も依頼しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの確認を継続しております。日中は、布パンツの使用、夜間は睡眠妨害にならないように注意しながら、ポータブルトイレでの排泄に努めており、オムツの使用が減る以外にも多くの利点を得ております。	トイレでの排泄を大切にしながら、利用者の状態に合わせ夜間も布パンツに紙パットを検討している。排泄チェック表を使用し、声掛けをしてさりげなく自立に向けた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつに繊維のある食材を提供したり、水分補給、排泄のタイミング等工夫をしております。また、腸の蠕動運動を促進する為に、歩行や運動に取り組んでおります。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	設定されている入浴日はありますが、利用者様の希望を伺い入浴できるような支援を行っている。また、失禁や病状によって必要な方は、臨機応変に対応している。	利用者のその日の希望を確認して、随時、体調を考慮しながら対応している。季節に合わせて、ゆず風呂等を楽しむ事もある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	畳でゆっくりテレビを見ながら横になったり、ソファで横になったり、居室でベッドで横になったりと、利用者様のご希望で休息されております。安静必要時は、主治医や看護師と相談をしております。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬変更時など、目的、用法や量、副作用など看護師が説明し、服薬や病状の把握に努めております。また、いつでも確認できるように、キッチンに服薬表を置く等の対応を取っております。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	初回アセスメントを始め、入所されてからも多くの情報収集に努め、新たな発見を行い支援に生かしています。また、家族会等にご家族が参加された際も、貴重な情報を経て、支援に生かしております。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて買い物や散歩など外出を楽しまれております。また、年間計画において花見やハイキングなど、ご家族様の協力を得て一緒に出かけております。	家族や車椅子の利用者も出かけやすい場所を選んで、近くの公園や利用者 - 一人ひとりの希望される場所へ行っている。季節や地域の行事を感じ取る事が出来る様に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かりしている小口現金で、買い物に出かけたり、おくんちなど、お賽銭を出したり、好きなものを買ったりされています。金銭の大切さを理解されている方が多く、買い物を節約されています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の方の面会が多く、利用者様は大変安心し、喜ばれております。年賀状や母の日の感謝の手紙など、親子の絆を大切に出来るように支援しております。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下、リビングなど季節を感じる事が出来るように、草花を飾ったり、季節のカレンダーと一緒に作ったりしております。また、廊下の温度設定や羞明があるご利用者様の座る席を配慮したりと、生活しやすいように工夫している。	職員は利用者の歩行訓練の場になる廊下の窓を、障子に見えるように、外枠を木の枠で囲み障子を張り、落ち着いた雰囲気となるように工夫している。畳のスペースでは、懐かしいお人形や手作りの玖珠球が飾られ、寛ぎの場となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的に気が合う利用者様同士が、同じテーブルに座っていらっしやいます。また、ソファや畳等に自由に移動したり、居室に戻ったりと思思いに居心地のよい場所へと移動できるようにしております。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅での生活に少しでも近づけられる様に、家具や馴染みの物をご持参頂いております。また、ご家族の写真やお手紙など思い出のものなど飾って頂いております。	利用者がこれまで大切にされてきた家具や写真、衣類が持ち込まれ、居心地の良さに繋がっている。一人ひとりの居室から家庭的な温かい雰囲気が伝わってくる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2階3階と構造上同じです。ドアも色を明るく、浴室も暖簾をつけ分かり易いようにしています。また、廊下も手摺を設置したり、鈴を利用したりして障害がある方でも、自立できるような工夫を行っております		